

各団の定期演奏会

『第十二回チャリティーコンサートを終えて』
女声合唱団ぶどうの会 玉生 邦子
 2021年6月に結成25周年を迎え、「音楽を通して地域福祉のお役に立ちたい」という思いで活動を続けてきました。2011年の東日本大震災が起きた年から本年までの十年間は、被災者支援活動を展開している東北の7団体に、合わせて340万円の寄付をお送りする事が出来ました。コロナ禍の中、マスクを着けて苦しい条件下の練習でしたが、先生をはじめ練習場所をお貸し下さる鎌倉恩寵教会他、多くの方々のご理解に支えられ、コンサートを開催する事が出来ました。また、いつもと変わらずチケットを購入する、あるいは寄付を下さるなど、私達と一緒に音楽を楽しんで？下さった方々にも心から申し上げます。次回コンサートからは、鎌倉市内の方々が働く2施設への支援を続けさせていただきます。

『演奏会を開催して』
なぎさ道 佐藤 ゆり
 8月28日、緊急事態宣言の真っ只中でしたが、鎌倉学習センターで演奏会を開きました。子供たちは学校生活でも歌う事がなくなり、発表の場も無くなっていることを考え、思い切って開催することにしました。緊急事態宣言が出たことで出演を取りやめた家族もありましたが判断はご家庭にお任せしました。その時点で考え得る限りの感染予防対策を取りました。無事演奏が出来、その後も具合の悪い人が出なかったのでもっといたしました。お客様には「元気を貰えた」と喜んでいただき、団員も徐々に達成感を味わい、明日に向かってのエネルギーを蓄えることが出来ました。末筆ながらご来場のお客様に心より御礼申し上げます。

『虹の彼方へ』 **MUSE 野村 晶子**
 なかなか抜け出せない洞窟に入ってしまったかのような厳しい状況下、私たちミュージズは力を合わせ、そしてひとりひとりの音楽をひとつにして、今年もミュージカル公演を成功させました。マスクをつけての公演に不安が大きかった中、浦畑先生が手作りでそれぞれの衣装に合ったマスクをデザインから作成まで手掛けてくださり、それがまるでお守りとなって成功に導いていただいたと思っています。演目は『オズの魔法使い』で、再演というかたちだったこと、そしてミュージズの強みでもある、年齢を問わない関係性が力を発揮しました。このステージをみんなで乗り越えた先には、また大きく成長したミュージズがあると確信しています！

『定演を開催して』
女声合唱かまくらの風 新井 澄子
 12月14日に逗子のなぎさホールにて、第12回女声合唱かまくらの風～風のクリスマスⅢ～を開催致しました。当初、本当に定演が出来るのかしらという思いが強かったのですが、合唱祭に参加した事で定演開催の目処が立ちました。感染対策はなぎさホールの方針に添って行いましたが、休憩の他に5分間の換気休憩も設けました。マスク着用に関しては直前まで迷いました。結局マスクは任意とし、マスクを外す場合は各自抗原検査をしました。今回、ご招待を始め、お誘いも控えましたが、幸いにももっと来ていただければ良かったと思える、風らしいハーモニーをご披露することが出来ました。そして、改めて合唱の楽しさを味わえたひと時でもありました。

『第12回西鎌倉混声コーラス定期演奏会』
西鎌倉混声コーラス 古賀 知
 11月21日(日)、鎌倉芸術館小ホールで演奏会を開催した。2020年初からコロナの感染拡大防止のために半年ほど合唱活動が制限されたが、8月から活動を始め、2021年11月に演奏会を開くことに決め、マスク着用、検温・消毒はもちろん、練習場内の二酸化炭素濃度を測定し、練習環境を整えながら練習を始めた。2021年に入ってコロナの感染が拡大し演奏会を開催できるか、開催して良いのかと葛藤し、迷った。しかし、人間生活にとって音楽がいかに大切かを感じたコロナ禍での活動制限。自粛で、毎週歌っていた練習ができなくなり、体調を崩したりした友人もいた。感染対策を粛々と行って、「目標に進めば何とかなる！」と考えて練習を続けた。今回は、児島先生の卒寿祝い演奏会として計画していた。児島先生選曲の鈴木憲夫作曲「Requiem」。児島先生が指導されている、混声合唱団 Bella Voce、混声合唱団 鎌倉コールの賛助出演で演奏した。先生が作曲の鈴木憲夫氏に「Requiem」を演奏する旨、お手紙を差し上げたところ、ご来場いただき聴いて頂いた。幸い、コロナが少し下火になった時期で多くのお客様にご来場いただいた。コロナ禍での演奏会開催に協力してくれた団員、スタッフ、賛助出演の皆さまに感謝したい。

編集後記：
 1年半ぶりの「えっせんす」発行になりました。2年ぶりの市民合唱祭、各団の定期演奏会を紹介して、新型コロナの感染拡大防止対策のため、停止していた演奏活動を指導させる起爆剤になればと、出演団体の方に思いを書いて頂きました。来年度は合唱連盟定期演奏会、市民合唱祭で晴れ晴れと演奏できればと願っております。(古賀 知)



鎌倉合唱連盟機関誌
 第37号
 発行日：2022年2月9日
 編集・発行：鎌倉合唱連盟
<http://kcl2011.sakura.ne.jp/>
 加盟団体数： 4 2 団体
 会員数： 9 6 4 名
 (2021年12月末現在)

コロナ禍の合唱
理事長 佐藤 ゆり
 昨年は10月31日に2年ぶりの市民合唱祭を開催し、いっなくな大勢の市民の方々にもご来場いただき、コロナ禍でも何とか練習を続けてきた18団体が演奏をした。「合唱を取り戻したい」その熱気が会場に溢れ充実した演奏会となった。演奏者はリハーサルなし、更衣なし、マスク着用と悪条件の中、それを感じさせない力のこもった演奏であった。会場でお聴きいただいた児島名誉理事長からは、絶賛のお手紙をわざわざ頂戴した。運営面でも皆様にご協力いただき、いつもとは違う手順の進行であったが、2週間後にもコロナ感染の報告はなく無事に終わることが出来た。「演奏は出来ないがお手伝いなら」とお申し出いただいた団もあり、本当に有難かった。みんな合唱が大好き。「この灯を絶やしてなるものか」と言う意気込みに溢れた一日であった。コロナ禍で当たり前と思っていた日常が奪われ、人と会う事、声を合わせて歌う事がどれほど必要なことであったかを再確認した日々でもあった。終息するのかとの期待に反し新しい株が拡大してきている。今年も7月3日定期演奏会、10月30日市民合唱祭と予定しているが、この情熱を忘れることなく手を取り合って進んでいきたい。皆様のご協力を改めてお願い申し上げます。

鎌倉市生涯学習センター・管理運営の改定について
理事 小倉 裕
 2021年12月の市議会で、学習センターの管理・運営の見直しに関する条例が可決されました。音楽室や集会室の利用時間区分の変更、ホールの午後と夜間の利用時間短縮、時間当たり利用料金の値上げ、そして施設の管理運営業務を民間の指定管理者に移行する予定、が主な改定内容です。
 この改定案は市民へのアンケート結果を反映したとしていますが、利用者への周知は明らかに不足で、内容も利用実態に配慮したものとは言えず、12月と1月に行われた説明会では撤回を求める反対意見が相次ぎました。しかし条例は可決成立してしまい、現在は10月からの施行のための運用細則の作成と、指定管理者の募集要項仕様書の作成が進められています。
 合唱連盟としては、上位組織の鎌倉市文化協会を通して、市民の要望に沿った適正な運営をするよう、市長と教育委員会宛の嘆願書を出すことにしています。
 ◆ 各学習センターの集会室等の利用時間は、現行の3区分から以下の5区分に変わります。
 ① 9時～11時 ②11時半～13時半 ③14時～16時 ④16時半～18時半 ⑤19時～21時
 (事前申込で22時まで延長可)
 入替の30分間は、前団体の片付けと後団体の準備に使えるよう、細則を検討中ということです。また、1コマ区分での申込の他、2コマ続きでの申込枠が設けられ、入替の30分を含めて4時間半の連続使用が可能です。抽選方法が複雑になり混乱が予想されるので、今後のお知らせには十分にご注意ください。
 ◆ 生涯学習センター ホールの利用時間区分は以下のように変わります。
 ① 9時～12時 ②13時～16時 ③17時～21時 (事前申込で22時まで延長可)
 この区分は条例の規定ですが、演奏会の実態にそぐわない面があり、入替の1時間を活用して利用実態に合わせた運用がされるように要望を出しています。
 ◆ 指定管理者への業務移行は、これから業者を公募する段階ですが、他の自治体での例を参考に運営ルール作りと業者選定を進めていると思われます。いわゆる「丸投げ」ではなく市の職員も常駐し管理を行うということですが、利益優先でサービス低下の懸念はあります。

第63回 鎌倉市民合唱祭

『鎌倉市民合唱祭を終えて』
 フラウエンコア・ヴォンネ 後藤 公子
 全ての合唱団に共通していることですが、この1年半、合唱は休止状態でした。そんな状況を破って、練習不足を承知で、ステージ演奏が実現できた2021年10月31日は鎌倉合唱連盟の歴史で記念すべき日となりました。リハーサルなし、決められた立ち位置、そしてマスクを付けたままの発声でしたが、大ホールでの生の演奏に「こんな素敵なことはない」と感じた合唱祭でした。

『2年ぶりのステージにて』
 三菱電機鎌菱会コーラス部 小野内 隆
 私共は湘南町屋の職場で働く仲間とそのOB、OGの合唱団です。コロナ禍以前は毎日昼休みに20分程度練習しておりましたが、非常事態宣言下は職場の指示で昼休みの練習を控えておりました。宣言解除の間は現役中心4~5人でアカペラ曲に挑戦しておりました。合唱祭再開のご案内をいただき、長年歌った曲で参加させていただきました。大勢で歌うとやはり気持ちがいいですね。

『市民合唱祭に参加して』
 こーる こすもす 阿部 栄子
 長い間、練習も出来ない日々が続きましたが、ようやく芸術館大ホールのステージに立つ事ができました。団員一同、歌う喜びを体いっぱい表現していたように思います。ステージで歌える事がこんなにも幸せなものなのかと改めて感じたものです。練習は、通常使用する近くの会場がコロナ禍で閉鎖されましたが、先生のお陰で、逗子の会場で練習を継続できたことは幸いでした。

『鎌倉市民合唱祭に参加して』
 アンサンブル クオーレ 片桐 恵子
 今回2年振りに、鎌倉市民合唱祭に参加しましたが、我が団も少数な人数のお陰で、さほど会場設定にも苦勞する事なく、細々でしたが、ずっと休まず継続して練習を行う事が出来ました。しかし乍ら、ただ練習をしているだけでは、全く満足感も得られず、発表の場がないと緊張感なく日々練習を重ねていました。今回市民合唱祭の舞台と言う目標が持て、改めて晴れの舞台の大切さを実感し、大きな満足感を得る事が出来ました。

『市民合唱祭に参加して』
 西鎌倉混声コーラス 小林 史子
 コロナ禍で3年振りに開催された合唱祭。練習回数が減ったりはしたものの、歌えることは喜びでした。合唱は自らが参加して音楽を作りあげます。曲の最後に4パートが美しい残響を響かせて終わった時などは嬉しい瞬間です。今回歌った2曲はハーモニーの美しい曲でしたが、充分表現できたかどうか…。これからも楽しみながら、みんなの良い音楽を作って行きたいと思っています。

『鎌倉市民合唱祭への参加を終えて』
 やまさき女声合唱団 筒井 智子
 昨年からのコロナ禍において、練習をお休みにせざるを得ない期間や、Zoomでの練習となった期間もありましたが、なるべく大きな練習場を確保し、時には分散練習をしたりと、様々な工夫をこらしながら楽しく練習を重ねて参りました。各団がそれぞれに大変な時期を経て、2年ぶりに市民合唱祭の場に集えましたことを大変感慨深く思っております。皆で歌える幸せを改めて感じながら、これからも練習に励んで参ります！

『スカッと歌った!』
 鎌倉男声合唱団牧神(パン) 新原 修
 最後に舞台上で歌ったのはいつかな〜、と思いたすのに手帳が必要なくらいに遠い昔の出来事です。チャンスが来ました！市民合唱祭です。コロナ禍の暗い雰囲気を取り破る「明るい歌」をと、丁度練習していた曲の良い発表の機会を頂戴しました。イタリア名曲です。おじさんたちが目いっぱい明るく歌ったら、「アンコール」と観客から無言の熱気が伝わってきました。歌うって楽しいですね、を再確認した舞台でした。

『久しぶりの大ホール』
 鎌倉市民混声合唱団 小倉 裕
 市民合唱祭で歌った2曲は、コロナが始まる直前から、中断期間を挟み2年越しで熟成した曲です。学習センターの耐震工事や芸術館大ホールの改修に続いてコロナ禍の試練。感染対策で練習回数を減らし、夜間の時短やマスクに換気などの困難を乗り越え、やっと3年半ぶりの大ホールでステージにかけることができました。あたりまえではない「合唱ができる幸せ」の大切さを知り、これからも粘り強く音楽を紡いでいきたいと思えます。

『10人のハーモニー』
 アンサンブル リブラン 中田 期子
 2年ぶりの合唱祭を楽しませていただきました。少ない練習でしたが、毎回精いっぱい励みました。たった10人になったメンバーで、大ホールで歌う不安でいっぱいでしたが、当日は一人一人がお互いの声を感じ合っ、心を込めて、「グロリア」を歌いました。久しぶりの大ホールはとても歌いやすかったです。コロナで困難な時に開催して下さった事に、とても感謝しています。ありがとうございました。

『本番の喜び』
 ムジコマーニ ストナート 碓井 佐智子
 消毒、検温、換気。距離をとって、歌唱用マスクをして練習。歌える嬉しさだけでなくやはり、不自由さや息苦しさもあります。そんな中、合唱祭開催の知らせは、大きな励みとなりました。より美しいハーモニーの追求は、時に厳しいと思えることもありますが、きれいに響き合った瞬間、全員が幸福感に包まれます。合唱祭当日は、あらためて、歌うこと・聴くことは、生きる糧なのだという思いを強くし、充実感でいっぱいでした。

『市民合唱祭に参加して』
 女声合唱団ミモザの会 山下 悦子
 コロナ禍で歌をろさむ事さえ、後ろめたさを感じてしまう日々の中、練習に通う事が私の救いでした。先生の独特な発声練習で大きな声を出し、ピアノの調べに合わせて歌う事、これを失くされてなるものかと、しがらみも振り切り、ハーモニーを求めて練習してきました。そして合唱祭の舞台に立てました。同じような思いで出演された全てのグループの歌声は素晴らしく、感激いたしました。このような合唱祭で演奏できた事に心より感謝し、御礼申し上げます。

『マスク越しのハーモニー』
 Anemone Coronaria 森下 美穂
 私たちの団は少人数ですので、コロナ禍でもほぼ途切れることなく活動を続けてきました。6月には県合唱祭に、先生考案の手作りキラキラマスクを付けて参加しましたが、離れ過ぎた隣との間隔や、ピアノとの間のアクリル板に声を阻まれ、思うような演奏ができませんでした。今回の市民合唱祭は隣との距離も縮まり、アクリル板もなく、大ホールの響きにも助けられ、マスク越しですが私たちのハーモニーをお届けでき、感謝しています。

『市民合唱祭に参加して』
 アンサンブル海の星 国富 素子
 誰も経験したことのないコロナ禍の中で市民合唱祭を開催して戴けたことをまず感謝申し上げます。皆で集まることもままならぬ1年半ほどの時間を経てやっとマスクをつけての演奏会!!どの団も久しぶりに歌える喜びに溢れているようでした。私たちも何ヶ月か中断はありましたが少人数で気をつけながら練習を続けてきてほんとはよかったです。感染対策を十分にされていた演奏会でしたので安心して出演することができました。

『市民合唱祭に寄せて』 児島名誉理事長よりのお便り
 10月31日(日)に開催した第63回市民合唱祭に出演された皆様、そしてお手伝い頂いた皆様、鎌倉市民合唱祭!!お疲れさまでした。合唱祭としてあまりに素晴らしかったので「ひとこと」感想をとペンを取りました。会は始めから終わりまで「鎌倉らしさ」と「インテリジェンス」に溢れ、ハーモニー決める時も、音に対する集中力は完璧でした。歴史の長い合唱団も多いと思うのですが、各団ともその歴史に応じた工夫と練習を重ねられ、コロナにも打ち勝って美しいハーモニーに到達されたのだと思います。素晴らしい合唱祭を聴かせていただいて本当に有難うございました。

『合唱祭感想 女声合唱かまくらの風 新井 澄子』
 合唱祭に参加して、久しぶりに鎌倉芸術館のステージに立って歌えることの喜びもありましたが、直前に声出しの出来ない中で、いつもと違いピアノが遠く、隣との距離があった上、マスク着用による声が充分出ないことの戸惑いの方が大きかったように思います。しかし、合唱祭を開催していただいたお蔭で12月の定演をどのように開催すれば良いかが分かり、定演開催への弾みがつきました。ありがとうございました。

『ステージに立つ!』 由比コーラス 青木 紀子
 関係者皆様のご尽力により2年ぶりに大ホールのステージに立ちました。広がり伸びていく歌声、マスクという遮蔽物があるにもかかわらず、歌えることの楽しさをホールいっぱいに満たしていきました。ステージという緊張感に足は震え、声は萎縮気味。でも歌いきった時の喜びと満足感は何にも代えられない宝物でした。又!の日を楽しみに、ひたすら練習に向う今日です。ご尽力下さった皆様、ありがとうございました。

『市民合唱祭に参加して』 なぎさ道 佐藤 ゆり
 コロナ禍で練習会場も閉鎖され、歌を歌うこと自体が困難な中、私たちはLINEで連絡を取り合って何とか練習を続け、歌う喜びと希望を深く感じる事ができました。そして今回その一筋の希望をアルペンみんセンターの入居者の方々と分かち合うことができました。国を追われ、困窮する難民の皆さんと一緒に歌ったことを子どもたちも生涯忘れないでしょう。これからも歌を通して希望の輪が広がっていくことを強く願った合唱祭でした。

『子供たちのワクワクドキドキを歌声にのせて』
 マナビノキ 末原 絵美
 約2年ぶりの舞台。メンバーが入れ替わり、半分の子は初舞台というドキドキの発表でしたが、いざ舞台に立ち、観客席を前にした途端「久しぶりにホールで歌える!」という喜びと嬉しさで胸がいっぱいになりました。子供たちが大好きな曲「好奇心のとびら」の最後の「バーン!」では、会場からどよめきと大きな拍手を頂き、子供たちも大きな達成感があったようです。このような舞台を用意して頂き、本当にありがとうございました。